

令和元年度（2019年度）

宮園A遺跡（第1次）発掘調査現地説明会

～役場のしたからこんにちは。まほろしの遺跡 発見！？～

令和元年（2019年）

12月7日（土）

熊本県教育委員会

はじめに

宮園A遺跡では、益城中央被災市街地復興土地地区整理事業に伴い10月から発掘調査を行っています。

ここは、熊本地震で被災した町役場の跡地で平成30年度から31年度にかけて益城町が確認調査を行いました。今回はこの確認調査で遺跡が残っていると確認された2,323㎡の発掘調査を行っています。

調査区は、宮園A遺跡の北西にあり、益城台地の南側傾斜面に位置しています。



遺跡位置図

ナゾを呼ぶ！？ ①周溝状遺構



周溝状遺構検出状況

調査区西側では溝が円形に巡る周溝状遺構が2基確認されました。1つは長軸7.4m、短軸4.6mの大きさで「0」のような構円形をしています。もう1つは大きさは不明ですが、調査区北端で遺構の一部を確認しました。

この遺構は溝の中から遺物が出土することが少なく、今回も遺物はほとんど出土しませんでした。円形の周溝状遺構は弥生時代の集落で

確認されることが多いですが、どのような役割の施設なのか、ナゾが多い遺構です。

宮園A遺跡周辺では、古闇北遺跡・梨木遺跡（益城インターチェンジ建設）、大辻遺跡（馬水地区災害公営住宅建設）などで同じような周溝状遺構が多く見つかっています。

南北にどこまで走る！？ ②溝状遺構

調査区の中央付近では南北方向に走る幅2.3mの溝が掘られていました。溝の底面は浅い所や深い所がある凹凸になっています。また、溝が埋まっていく段階で掘り直しをしているような痕跡もあることから、長い期間使用された溝と考えられますが、この溝が掘られた目的はよくわかりません。時期については中世もしくは近世と考えています。

残りの調査期間で少しでも不明な部分が解明されるよう発掘調査を実施していきます。

ポツンと一軒家！？

③竪穴建物

調査区の中央付近では竪穴建物も2基確認されました。1つは調査区中央東よりのところで、南北3.3m、東西2.2mの大きさの竪穴建物で、出土した壺などの土器の特徴から弥生時代のものと考えています。もう1つは、調査区中央で南北3.6m、東西3.4mの大きさの東側にカマドが付いた竪穴建物です。土器はほとんど出土しませんでしたが、カマドが付いていることから古代の建物と考えられます。今後、これら建物の周辺を精査し、建物の構造を解明していきます。

現在、この地域には住居が多く立ち並んでいますが、調査では弥生時代と古代の建物がそれぞれ1軒ずつしか確認されませんでした。なぜ1軒しか見つかないのでしょうか。誰か特別な人が利用した建物でしょうか、何か特別な機能を持った建物でしょうか、それとも、今は確認できませんが当時はたくさん建物が建っていたのでしょうか、想像が膨らみます。

まほろしの遺跡 発見！！？ ④ 穰棺

昭和35年ごろ益城町役場の周辺では、人骨や穰棺が見つかっており、遺跡の性格がよくわからない「まほろしの遺跡」といわれていました。それが、今回の調査で調査区東側から10基の穰棺が見つかりました。

穰棺は、亡くなった人を埋葬する土器の棺です。弥生時代前期（約2,200年前）以降、九州北部地域を中心に穰棺墓がたくさん造られました。穰棺は通常2個の土器を合わせてお墓としますが、今回の調査では、ほとんどが1個のみのものでした。調査の結果、穰棺を地面に対し斜めに埋葬するもの、水平に埋葬するものなど、埋葬方法の違いが分かりました。

今後、穰棺内から人骨や副葬品などが確認されれば、当時の社会構成や弥生人の生と死に対する考え方方がわかるかもしれません。



検出した穰棺

おわりに

今回の発掘調査によって穰棺や竪穴建物などが確認され、これまでまほろしとされてきた宮園A遺跡の様子を少し明らかにすことができました。今後、調査成果をまとめた報告書を刊行し、宮園A遺跡は記録として未来に残されますが、この遺跡のようにみなさんが生活をしている、まさにその下に先人たちの生活の跡が眠っています。私たちが暮らす地域の歴史を次世代につなげていきましょう。

ONE TEAM



宮園A遺跡は熊本地震の復興のために本当に活きた歴史の方々と調査を行っています。

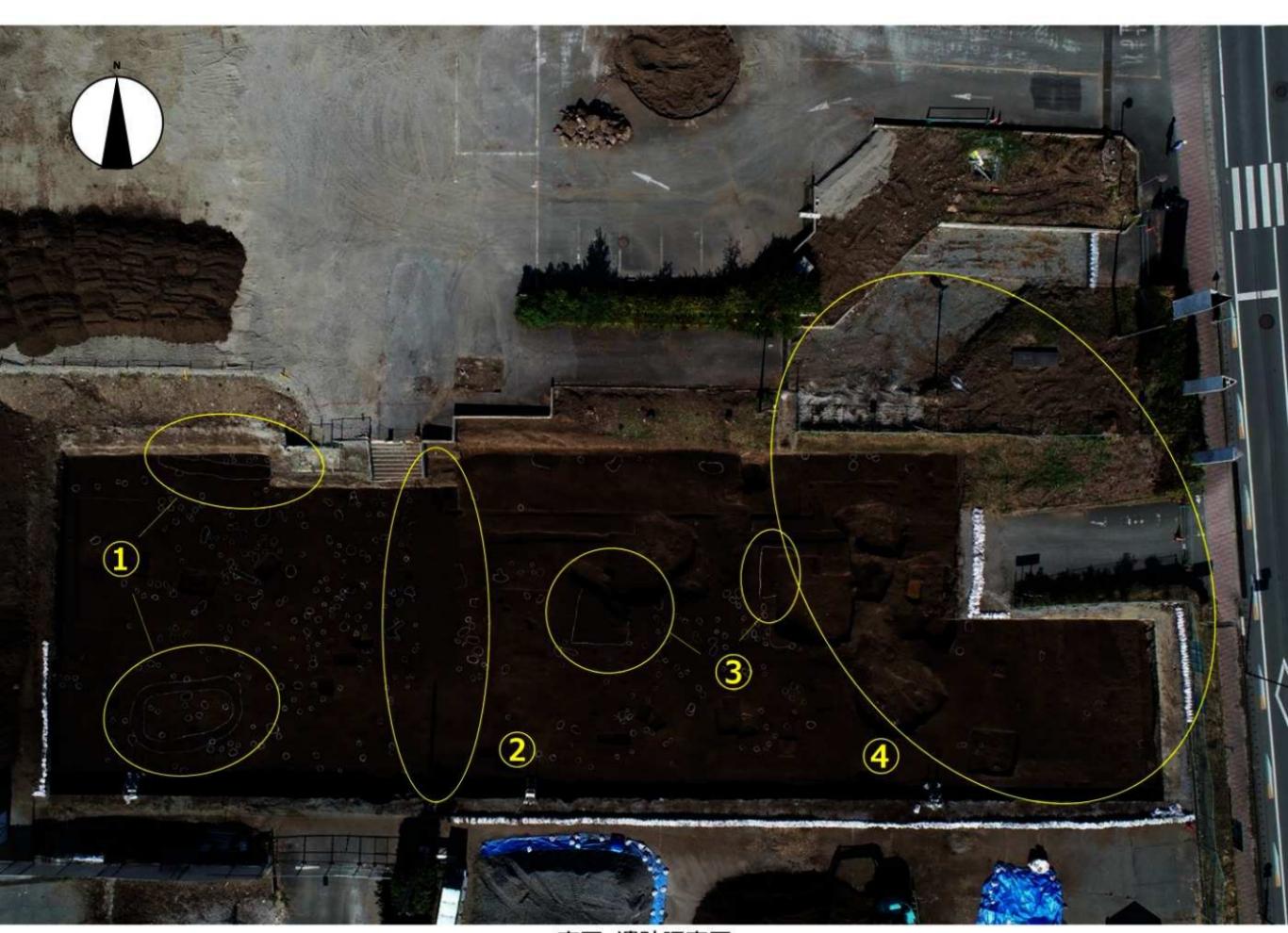
【問い合わせ先】

熊本県教育厅教育総務局文化課文化財調査班

〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話（096）333-2706 / FAX（096）384-7220

メール bunka@pref.kumamoto.lg.jp



宮園A遺跡調査区